

「ソーシャルワーク、教育および社会開発に関する合同世界会議 2016 年ソウル大会」報告記

教育福祉学部社会福祉学科 宇都宮 みのり

はじめに

本報告では、2016 年 6 月 27 日から 30 日にわたって、韓国の COEX ソウル会議場において開催された「ソーシャルワーク、教育および社会開発に関する合同世界会議 (Joint World Conference on Social Work, Education and Social Development 2016 : SWSD2016)」に関して、①グローバル・アジェンダと基調講演、②筆者の専門である精神保健福祉関連の研究動向、③開会式における障害のある人による抗議行動の 3 点に焦点を当てて記す。

SWSD2016 の構成は、基調講演 (Ⅰ～Ⅲ、6 報告)、シンポジウム (41 室、218 報告)、スポンサーセッション (3 室、27 報告)、ワークショップ (34 室、104 報告)、口頭での研究発表 (147 室、761 報告)、ポスターでの研究発表 (321 報告) である。また現地視察先として 12 か所が用意されていた。SWSD2016 のプログラムは、初日の 6 月 27 日 (月) に、分科会、開会式 (挨拶、グローバル・アジェンダに関する 3 団体会長からの発言) とオープニング・セレモニーが催された【写真 1】。2 日目の 28 日 (火) に、基調講演Ⅰ、分科会、ワークショップ、シンポジウム、特別講演、文化の夕べ (食事会) が催された。3 日目の 29 日 (水) に、分科会 (日中韓合同セッションを含む)、基調講演Ⅱ、分科会、ワークショップ、シンポジウム、公式晩餐会があった。最終日の 30 日 (木) に、分科会、ワークショップおよび基調講演Ⅲがあり、そして閉会式で締めくくられた。会議参加者は『日本医療社会福祉協会ニュース』(No. H28-3 2016. 10. 31) によると

83 か国から 2,381 人とのことである。

1. グローバル・アジェンダと基調講演

SWSD は、国際ソーシャルワーカー連盟 (International Federations of Social Workers: IFSW)、国際ソーシャルワーク教育学校連盟 (International Associations of Schools of Social Work: IASSW)、国際社会福祉協議会 (International Council on Social Welfare: ICSW) の 3 団体が共同で 2 年に一度開催する社会福祉分野における最大規模の国際学術大会である。世界合同会議は 4 回目となる。1 回目は香港 (2010) にて「ソーシャルワークと社会開発：アジェンダ」をテーマとして開催された。2 回目はストックホルム (2012) にて「ソーシャルワークと社会開発 2012：行動と影響」をテーマとした。ここで 3 団体はグローバル・アジェンダを採択する。3 回目となるメルボルン大会 (2014) では、アジェンダに基づいて「社会的・経済的平等の促進」がテーマとして設定され、1 回目の報告書が配布された。そして今回のソウル大会のテーマは「人間の尊厳と価値の推進 Promoting the Dignity and Worth of People」であり、2 回目の報告書が発行された【写真 2】【図 1】。

大会テーマに呼応する基調講演は 3 回に分けて開催され、6 つの報告を聞くことができた。

1970 年代に設立された韓国の NPO (Good Neighbors International) の代表である Ilha Yi 氏は、NPO の役割には政策を作るための「ロビー活動」と「持続可能な社会づくり」と北朝鮮との統一に



【写真1】オープニング・セレモニーの様子 (2016. 6. 27)

むけた「和解」の活動にあるという興味深い報告をした。(I., 2016)。

次に、HIV 陽性者(People living with HIV: PLHIV)への差別の問題に対して、当事者の権利擁護活動をしてきた Romy Mathys 氏は、① PLHIV は2つの恐怖に直面する：死の恐怖と「恥ずべき行為に対する罰」というスティグマの恐怖、② PLHIV であることの開示は危険を伴う：「恐怖を抱えながら健康な生活は送れない」が、国によっては殺害されることもあるため、開示は環境面の準備を含めて慎重に考える必要があるという (R. Mathys, 2016)。



【写真2】グローバル・アジェンダの報告書 (2016)

また、Silvana Martinez 氏は、「ソーシャルワークを作り直さなければならない」というメッセージを発した。ソーシャルワーカーが「変えるべき現実」は、征服と搾取の結果としての社会的秩序、武器・麻薬・人身売買・人権差別などネガティブなものを有する権力、家父長制的状況、移民を生

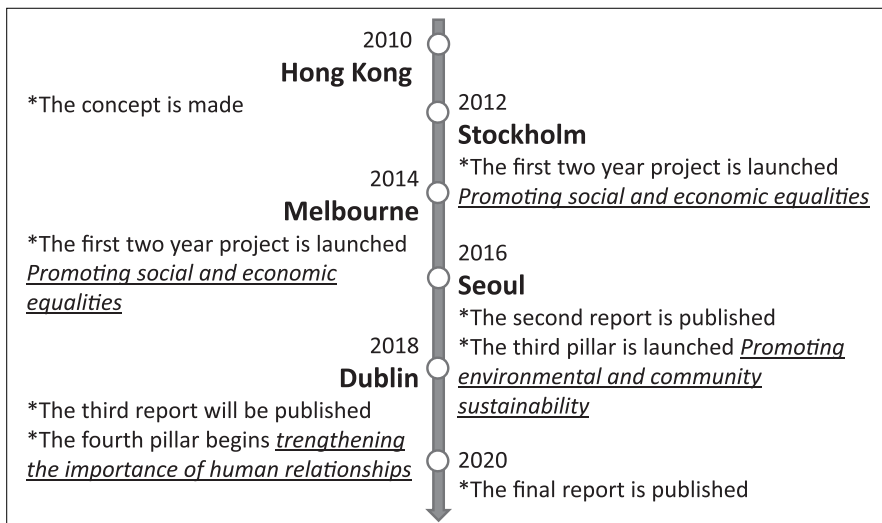


図1 Global Agenda for Social Work and Social Development

出典：2016. 6. 27 開会式における Eva Holmberg-Herrstöm 氏 (ICSW 会長) によるグローバル・アジェンダに関するスライドをもとに作成

み出す政治的対立、人類史上類を觀ない根深いアパルトヘイト等の強大な圧迫構造であり、民主主義が崩壊し人類は弱められている中でソーシャルワーカーは孤立した人々を助ける役割があるとする。「ラテンアメリカ地域のソーシャルワーカーは、1%のエリートのためではなく 99% の立場に立つ」と力強く発言した（S. Martines, 2016）。

Abye Tasse 氏（IFSW の前会長）は移民・移住の問題を取り上げた。Tasse 氏は、自身もエチオピア人の多くが国を離れなければならなかった 35 年前に、スーダンからエジプト、エジプトからフランスへ渡り、政治的避難者として受け入れられたとのことである。世界で自分の命を危険にさらしながら活動しているソーシャルワーカーは、今集結しなくてはならない、と訴えた（A., 2016）。

Mark Henrichson 氏は今の重要かつ喫緊の課題として、Henrichson 氏自身の経験として、「性的少数者」の迫害を取り上げた。同性者同士の結婚が世界 19 개국で保障される一方で、残虐な強制的治療を法律で定める国や、死刑にする国がいまだにあること、さらにレイプが 17 秒に一人に起こる地域では、「正す」ためのレイプもあるということのを例に挙げ LGBT の人には尊厳や価値は認められていないと訴えた。やはりここでも権利擁護の活動はリスクを伴うが、ソーシャルワーカーはここに立ち向かっていく存在とした（M. Henrichson, 2016）。Henrichson 氏の「“性同一性障害者”として生きることはできない。“自分は正常である”という考え方が少数者を圧迫してきた」という言葉が印象的だ。

最後に John Fung 氏がデジタルデバイスの活用を取り上げた。高齢者、障害者は次の 20 年で急増ことが予想される中、人手不足解消のために、補助技術としてのデジタルデバイス活用は未来への可能性をつなぐものであるとする（J. Fung, 2016）。

基調講演では、「尊厳と価値の推進」をはかるために、権力構造と闘うこと、権利擁護のために働くことが強調された。

2. 研究報告の動向（特に精神保健福祉分野に注目して）

会議開催期間中のプレゼンテーションは 7 つのカテゴリーに分類された【表 1】。口頭研究発表を領域別に再分類すると、25 の領域で合計 761 件が報告されていた。最も多かったのは「健康とメンタルヘルス」領域で、18 会場にて 100 件の報告がなされたことがわかった【表 2】。

これらの中で、筆者が関心のある精神保健福祉に関する研究に着目すると、21 題目が見いだされた。報告者の地域別にみると、アフリカ地域から 5 題目、ヨーロッパ地域から 2 題目、北アメリカ地域から 6 題目、ラテンアメリカ地域から 0 題目、アジア太平洋地域から 8 題目であった。主な内容は以下の通りである。筆者が分科会に出席できなかった報告は抄録を参照した。

アフリカ地域から、民主化された南アフリカにて精神障害者の人権運動の高まりによる脱施設化が地域の支援体制を整えることなく急激に進められたために弊害が生じている実態（A. Ornellas, 2016）（南ア）、精神疾患に対する偏見の強さから、その家族が精神患者を隔離してしまっている実態（Y. Xundu ら, 2016）（南ア）、資源が限られた地域における在宅の精神障害者の介護者（訓練を受けていない人）が直面する課題と負担状況（P. Jaravani, 2016）（ジンバブエ）、移民帰国者の身

【表 1】 カテゴリー別プレゼンテーション数

カテゴリー	演題数
Human Rights	77
Self Determination	133
Maltreatment Violence	65
Healthy Life	181
Enabling Environment	133
Social Protection	243
New Methods	263
Total	1,095

出典：IASW 会長による開会式でのプレゼン資料
“Moving Forward”より抜粋

【表2】分科会テーマ別演題数と会場数

分科会テーマ	演題数	会場数
Health and mental health	100	18
Education and training	100	17
Social work practice	80	14
Child welfare	63	11
Ageing	51	10
Migration	33	7
International social work	32	6
Community development	32	6
Human rights	30	6
Interpersonal violence	23	6
Gender equality	23	4
Poverty	23	6
Social protection	22	5
Disability	21	4
Disaster and environmental change	20	4
Human service technology	17	3
Criminal justice	15	3
Social action	10	2
Sustainability	8	2
Labor	7	2
Human trafficking	7	2
Corporate social responsibility	7	1
Population change/safety	6	1
Service, practice teaching and research of social work in the Chinese mainland	5	1
Housing	4	1
Others	22	5
Total	761	147

注：“Program Book, SWSD2016”より抽出、分類し作成した。

体的精神的苦痛の調査報告 (A. M. Gezie, 2016) (エチオピア)、重度精神障害者の介護者 (精神保健福祉従事者) の対応メカニズム研究 (J. Langba, 2016) (南ア) があった。精神障害者を取り巻く現状報告と支援者の負担に関する報告が多い。

北アメリカ地域からは、アメリカ在住の日本の

研究者を中心とするチームが東日本大震災の被災者に対応したソーシャルワーカーの二次的外傷性ストレス (STS) のリスクは職場環境、同僚の結束度、ケース数によって増減することを明らかにした (H. Kanno ら, 2016) (米)。また精神保健福祉領域のソーシャルワーカー教育はアドボカシーとリーダーシップが核であることが報告された (K. Wade, 2016) (米)。その他、対象課題別に、性的虐待を受けて現在成人になっている男性の抱える課題 (鬱、不安、ストレス、PTSD 等) への個別面接 / グループワーク、電話、e-カウンセリング等の支援は成果があったこと (S. Hyun Yun ら, 2016) (カナダ)、鍼治療がうつ症状に寄与しうる可能性とその要因の研究 (P. Leung ら, 2016) (米) は、いずれも新しい分野であり今後貴重なデータとなるであろう。また、暴力的な犯罪をする少年に対しての適切な介入のためにはメンタルヘルス・アセスメントが必要であることも報告された (V. Venable ら, 2016) (米)。もっとも興味深いのは、これまでほとんど知られていなかった、若いアジア系アメリカ人の女性があらゆる民族の中で自殺率が最も高く、しかもこの数年で急速に増加していることを実態調査から明らかにした研究 (H. C. Hahm ら, 2016) (米) である。今後の自殺予防のための緊急スクリーニングにインパクトを与えるものとなろう。北アメリカ地域からは多様な課題への現実対応のための実践理論が主に報告された。

ヨーロッパ地域からは、入院中の精神障害者の人権擁護 (J. Shears, 2016) (英)、薬物乱用者がスティグマを克服して尊厳と価値を高めるための実践理論 (リフレクティブ・プラクティス) の研究 (H. Barnes, 2016) (英) が報告された。

アジア・太平洋地域からは、重度精神障害者に対する就労支援 (M. Petrakis ら, 2016) (豪) や、コミュニティベースの公衆衛生サービス (FCMH) へのアクセスが20年間で大幅に増加した (J. Chuong, 2016) (豪) という成功例といえる報告の一方で、適切な精神保健福祉サービスにアクセスできない要因に精神疾患に対する偏見や誤解が

あったことを当事者の語りから明らかにしたもの（K. Burriell, 2016）（豪）や、精神疾患を有する人は援助を求めることそのものを躊躇し、コミュニティベースのサービスを受け入れない傾向があることを、やはりインタビュー調査によって検証したもの（J. Chen, 2016）（香港）があった。コミュニティベースの精神保健福祉の新しいモデル開発の難しさには地域性や文化性など個別性がある。それを理論化するにはこのような個別の聞き取り調査による事例の蓄積が必要となろう。その他、インドにおいて都市化によって伝統的な共同体が崩壊する中で子どもが長期的なストレスに直面していることから、ストレスを減らし幸福を促進する方法論を論じたもの（V. M. Narasimha, 2016）（印）、香港で精神科受診者が急増し早期介入の必要性が生じている現状から、中学生の調査をしたところ約 19% がうつ病に苦しみ、約 2% が重度の自殺念慮を示し、約 30% が強い不安に苦しんでいることを明らかにした報告があった（C. Kwan Tam ら, 2016）（香港）。また、ガン患者とその配偶者が自らの抱える心理的苦痛に「意味」を見出すことや否定的感情をコントロールすることによって精神的変換を果たしたことも報告された（Jung-Won Lim, 2016）（韓国）。アジア太平洋地域は、ソーシャルワーカーには、法律による治療的介入を最小限にすると同時に人権擁護と社会正義の役割を果たすという役割があるということと、コミュニティベースの支援方法に関する報告が目立った。なお、精神保健福祉領域に関する口頭発表は日本からは 0 題目であった。ポスター発表では日本から 32 題目あり、そのうち精神保健福祉に関する報告は 1 題目だけであった（M. Utsunomiya, 2016）（日本）。

3. 開会式における障害のある人の団体による抗議活動

6 月 27 日の開会式において、COEX の大会場には 2,000 人以上のソーシャルワーカーが着席する中、開会の挨拶に続き、朴槿恵（パク・クネ）大

統領と潘基文（パン・ギムン）国連事務総長（当時）からのビデオ・メッセージが流された後、鄭鎮燁（チョン・ジンヨプ）保健福祉部長官が登壇した。その時に、数人がプラカードを掲げながら壇上に上がって叫び、長官に近づこうとする出来事が起こった【写真 3】。彼らは、即座に会場警備員によって制止され、会場外に連れ出された。一瞬のことで事態の把握ができずにいたが、車いすを利用する人が見えたことから障害のある人による抗議だろうと推測できた。会場ではヒソヒソとした話し声があったが、開会式は何事もなかったかのように続けた。

3 団体会長によって、グローバル・アジェンダと今回のテーマである「人間の尊厳と価値の推進」に関する各地域の取り組みが報告された後、フロアから IFSW の会長に対して、「先ほどは、まさに今回のテーマである『人間の尊厳と価値の推進』を望む人々がデモをしていたのではないかな。なぜこんなことが起こったのか？」という声があがり、それに賛同する拍手が会場で起こった。IFSW の Ruth Stark 会長は次のように返答した。

「この会場にいる人々と同じように、私は、サービスを利用する人々が自分の声を聴いてほしいと願ってデモンストレーションをする姿を見ました。私たちが今回発行した『報告



【写真 3】開会式で講義しようとする当事者団体の様子
出典：“Protesters on stage at a social work conference in Seoul,” photograph by Ruth Hardy. The Guardian (2016. 6. 27 付), “Disabled people stage protest at world social work conference,”

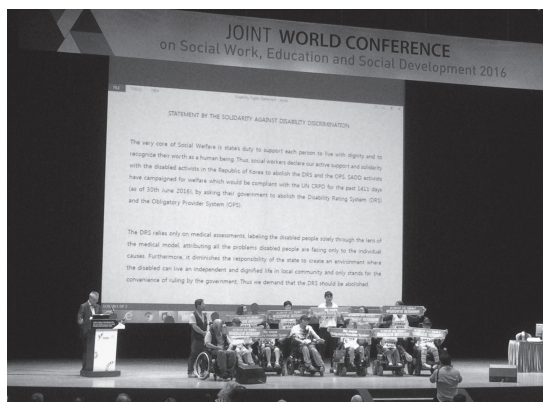


【写真4】会場の質問に答える Ruth Stark (2016. 6. 27)

書』にあるメッセージの1つは、世界中の人々が望むものであり、サービスを利用する人々が聞きたかったことだと思います。私たちは環境を作らなくてはなりません。話を聴いてほしいと願っている人との対話を生み出す責任があります。世界の各地域から出てきたテーマの1つは、私たちが政策に影響を与え、資源を獲得し、すべての人々が尊厳と尊敬をもって扱われることを認識し、人々と協力して活動することでした。それがソーシャルワーカーとしての私たちと、この分野で働く人々が、私たちの日々、私たちの年々、私たちの生涯を、すべての人々の尊厳と価値を促進するために費やしているのです。私たちはデモンストレーションを聞き、デモンストレーションを見ました。私たちは、今日起ったような方法ではないやり方で、いかに人々の声を聴くことができるかを考えなければなりません。」【写真4】。

この出来事は英国の日刊紙 the Guardian によって「障害のある人がソーシャルワーク会議で抗議するという」という見出しで即日報じられた (The Guardian, 2016. 6. 27)。

最終日の6月30日、閉会式の直前に当事者が登壇する時間が設けられた。SWAN 運営委員会メンバーが SWSD2016 主催者に働きかけて実現



【写真5】最終日に登壇した当事者団体のメンバー (2017. 6. 30)

したとのことである (SWAN2016)。そこでは、「障害のある人を差別する制度に反対する4年の闘いで亡くなった12人の当事者の生前の姿」とその理由がビデオで流れた。「障害等級制度 (DRS) と義務供給制度 (OPS) を廃止してください」と訴え、前者が差別的な評価システムであること、後者が家族による扶養が前提であるため最低の生活水準が保証されないシステムであることが説明された。生存権を求める活動であることが伝えられると会場からは拍手が起こった【写真5】。Stark 会長が開会式で述べたように「ソーシャルワーカーには当事者とともに政策をつくっていく」ことが求められる。開会式では当事者の声をまったく聴くことができなかった。SWSD2016の期間中、寂然としないままであったが、閉会式直前ようやく彼らの声を聴くことができ、強く闘う当事者とそれを支援する支援組織の協働の姿を見ることになった。声を正しく聴くこと、その声を世に届かせること、その声を実現することについて、自分の力が試されているような出来事であった。

おわりに

SWSD2016 で学んだ多くのことの中から特に印象的であった3点に焦点を当てて記録した。過酷な状況におかれる人々の尊厳と価値を守り、彼

らとともに環境を作る責任について、世界のソーシャルワーカーと共有できた4日間であった。このエネルギーを糧に、次のアジェンダをふまえ、世界の中のアジア、アジアの中の日本を俯瞰すると同時に、目の前の人々をしっかりと見つめ、苦しんでいる人々とともに進まねばならない。

謝辞

本報告は JSPS 科研費 15K03931 の助成を受けたものである。

引用参考文献一覧

1. 日本医療社会福祉協会『日本医療社会福祉協会ニュース』No. H28-3 2016. 10. 31.
 2. The Guardian 2016. 6. 27, *Disabled people stage protest at world social work conference*, <https://www.theguardian.com/social-care-network/2016/jun/27/disabled-protesters-social-work-conference-seoul>. (2017. 2. 5 access)
 3. Social Work Action Network (SWAN); *Thought-provoking events at the SWSD Conference 2016*, <http://www.socialworkfuture.org/articles-resources/international-articles/502-thought-provoking-events-at-the-swsd-conference-2016>, (2017. 2. 5 access)
- SWSD2016 基調講演からの引用一覧
1. Abye Tasse; *Waves against the Wall? International Migration and Social Work*, Program Book of Joint World Conference on Social Work, Education and Social Development, 2016. (以下同)
 2. Ilha Yi; *Making a Better World by Promoting Worth of People: Challenges and Roles for NPO's*.
 3. John Fung; *Challenges and Opportunities for Social Workers in Contemporary Information Society*.
 4. Mark Henrichson; *Promoting the Dignity and Worth of All People: The Privilege of Social Work*.
 5. Silvana Martinez; *Politics, Democracy and Social Work in Latin America and Caribbean*.
 6. Romy Mathys; *The Benefits of Disclosure- One Step towards Ending HIV-Discrimination*.
- SWSD2016 精神保健福祉に関する口頭発表（下線は報告者）
7. Abeba Minaye Gezie (Addis Ababa University, Ethiopia); *Mental Health and Somatic Distress among Ethiopian Migrant Returnees from the Middle East*.

8. Abigail Ornellas and Lambert K Engelbrecht (Stellenbosch University, South Africa); *The Deinstitutionalization of Mental Health Care in South Africa: Moral Progress or Neoliberal Copout?*.
9. Chak Tong, Thomas Fung and Chun Bong Chung (Baptist Oi Kwan Social Service, Hong Kong); *A Study of Youth Mental Health in Hong Kong Secondary School Students*.
10. Chi Kwan Tam and Suk Wah Yau (Hong Kong Sheng Kung Hui Welfare Council, Hong Kong); *Evaluating Mental Health Promotion in Hong Kong Primary Schools*.
11. Hanae Kanno (Valdosta State University, USA), Yoon Mi Kim (Kutztown University of Pennsylvania, USA) and Monique Constance-Huggins (Winthrop University, USA); *"Risk and Protective Factors of Secondary Traumatic Stress in Social Workers Responding to the Great East Japan Earthquake"*.
12. Helen Barnes (The University of Manchester, United Kingdom); *Rethinking Practice with People who Misuse Substances: Theory for Practice to Challenge Stigma and Promote Dignity and Worth*.
13. Hyeouk Chris Hahm, S. A Lee, M Maru and B Yoon (Boston University School of Social Work, USA, Beth Israel Deaconess (Medical Center, USA); *The Prevalence and Descriptions of Suicidal Ideation and Intent among Young Asian-American Women: Preliminary Data from the Aware Intervention*.
14. Jane Shears (British Association of Social Workers, United Kingdom); *Mental Health and Mental Capacity Assessments: Social Workers Making Best Interest Decisions*.
15. Joe Chuong and Angela Nguyen (Fairfield Community Mental Health, SWSLDH, Australia); *CALD Social Work Leadership in a Mainstream Australian Local Community Mental Health Service*.
16. Juan Chen (The Hong Kong Polytechnic University, Hong Kong); *Somebody May Need It, But Not Me, Not Now: Developing Professional Mental Health Services in Urban China*.
17. Jung-Won Lim (Kangnam University, Korea); *Spiritual Transformation and Psychological Distress for Couples Coping with Cancer*.
18. Kathleen Wade (University of Michigan, USA); *"A Case Study of a Large Academic Health System and the Changing Roles of Health and Mental Health Social Work: An Administrator's Perspective"*.
19. Kristen Burriel (The University of Sydney, Australia); *The Experiences of Mothers Living with a Diagnosis of Mental*

- Illness.*
20. Lynne Hogan and Johannes John-Langba(University of Cape Town, South Africa); *Coping Mechanisms of Caregivers of Persons Diagnosed with Severe Mental Illness in South Africa.*
 21. Melissa Petrakis(Monash University, St Vincent's Hospital Melbourne, Australia), Yolande Stirling (Monash University, Australia) and Kate Higgins (MI Fellowship, Australia); *Employment as a Pathway to Social Citizenship for People Experiencing Severe and Persistent Mental Illness: Outcomes Across 7 Years of Integrated Service Delivery and Partnership.*
 22. Patrick Leung, Monit Cheung, Ann Webb and Xin Chen (University of Houston, USA); *Depression Symptoms among American Patients in Acupuncture Treatment: Gender and Racial Differences.*
 23. Primrose Jaravani (International Pharmacotherapy Education and Research Initiatives, Zimbabwe), and Paradzai Mushore (Women's University in Africa, Zimbabwe); *Burden among Caregivers of Psychiatric Patients in Resource Limited Settings.*
 24. Sung Hyun Yun (University of Windsor, Canada), and Lydia Fiorini (Sexual Assault Crisis Centre of Essex County, Canada); *The Mental Health Outcomes for Adult Male Survivors of Sexual Abuse: Evidence-Based Practice from the West Region Male Survivor Programs in Ontario, Canada.*
 25. Vranda Mysore Narasimha (National Institute of Mental Health and Neuroscience, India); *Promotion of Mental Health and Well-Being of Adolescents in Schools using Teachers as Facilitators.*
 26. Victoria Venable, Larence Becker, Marvin Tossey and Kelly McIntyre (Salisbury University, USA); *Enhancing Mental Health Assessment Abilities with Violent Juvenile Offenders.*
 27. Yan disa Xundu (Sterkfontein Psychiatric Hospital, South Africa); *Shared Psychotic Disorder: The Social Work Perspective.*
- SWSD2016 精神保健福祉に関するポスター発表
28. Minori Utsunomiya (Aichi Prefectural University, Japan); *Mental Health and Welfare Issues in Japan: A Historical Perspective.*